

最後の審判

シリーズ～終末を生きる～

ヨハネの黙示録 20章

先週のおさらい

- 小羊の婚宴
 - キリストと教会は永遠に結ばれる
- キリストの再臨
 - イエス・キリストが勝利者として、また裁き主として地上に来られる
- 二匹の獣の裁き
 - 終末に人々を惑わしたサタンの手下たちが「火の池に」投げ込まれる

ヨハネの黙示録20章

わたしはまた、一人の天使が、底なしの淵の鍵と大きな鎖とを手にして、天から降って来るのを見た。この天使は、悪魔でもサタンでもある、年を経たあの蛇、つまり竜を取り押さえ、千年の間縛っておき、底なしの淵に投げ入れ、鍵をかけ、その上に封印を施して、千年が終わるまで、もうそれ以上、諸国の民を惑わさないようにした。その後で、竜はしばらくの間、解放されるはずである。

わたしはまた、多くの座を見た。その上には座っている者たちがおり、彼らには裁くことが許されていた。わたしはまた、イエスの証しと神の言葉のために、首をはねられた者たちの魂を見た。この者たちは、あの獣もその像も拝まず、額や手に獣の刻印を受けなかった。彼らは生き返って、キリストと共に千年の間統治した。

その他の死者は、千年たつまで生き返らなかった。これが第一の復活である。第一の復活にあずかる者は、幸いな者、聖なる者である。この者たちに対して、第二の死は何の力もない。彼らは神とキリストの祭司となつて、千年の間キリストと共に統治する。

この千年が終わると、サタンはその牢から解放され、地上の四方にいる諸国の民、ゴグとマゴグを惑わそうとして出て行き、彼らを集めて戦わせようとする。その数は海の砂のように多い。彼らは地上の広い場所に攻め上って行って、聖なる者たちの陣営と、愛された都とを囲んだ。すると、天から火が下って来て、彼らを焼き尽くした。そして彼らを惑わした悪魔は、火と硫黄の池に投げ込まれた。そこにはあの獣と偽預言者がいる。そして、この者どもは昼も夜も世々限りなく責めさいなまれる。

わたしはまた、大きな白い玉座と、そこに座っておられる方とを見た。天も地も、その御前から逃げて行き、行方が分からなくなった。わたしはまた、死者たちが、大きな者も小さな者も、玉座の前に立っているのを見た。幾つかの書物が開かれたが、もう一つの書物も開かれた。それは命の書である。死者たちは、これらの書物に書かれていることに基づき、彼らの行いに応じて裁かれた。海は、その中にいた死者を外に出した。死と陰府も、その中にいた死者を出し、彼らはそれぞれ自分の行いに応じて裁かれた。死も陰府も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。その名が命の書に記されていない者は、火の池に投げ込まれた。

千年王国

- サタンが「底なしの淵」に閉じ込められる
 - サタンのいない世界となる
- 殉教者が復活する（「第一の復活」）
 - 獣を拝まず「額や手に獣の刻印を受けなかった」
 - 「イエスの証しと神の言葉のために、首をはねられた者たち」
- キリストと共に千年間地上を治める
 - 「彼らは生き返って、キリストと共に千年の間統治した」>全員生き返ったら多すぎる！
 - 最初の被造世界の完成形？

サタンの敗北・裁き

- 千年王国の後、サタンが解放される
- 「地上の諸国の民」を惑わして集める
 - 「ゴグとマゴグ」とは神に敵対する勢力の総称
 - サタンにつく者がまだいることが不思議
- 最後の戦い
 - 「聖なる者たちの陣営と、愛された都を囲む」
 - 「天から火が下って来て、彼らを焼き尽くした」
- サタンの裁き
 - 「彼らを惑わした悪魔は、火と硫黄の池に投げ込まれた」!

最後の審判

- 裁判官(主なる神)が着席される
 - ◻ 「大きな白い玉座と、そこに座っておられる方」
- 最初の被造世界が消滅する
 - ◻ 「天も地も、その御前から逃げて行き、行方が分からなくなった」
- 被告(全人類)が呼び出される
 - ◻ 「海は、その中にいた死者を外に出した。死と陰府も、その中にいた死者を出し…」

最後の審判

- 「幾つかの書」が開かれる
 - 全人類一人一人の完全な記録
- 「行いに応じて裁かれ」る
 - 「もう一つの書物も開かれた。それは命の書である。死者たちは、これらの書物に書かれていることに基づき、彼らの行いに応じて裁かれた。」
- 「**命の書**」をもとに判決が下される
 - 「その名が命の書に記されていない者は、火の池に投げ込まれた。」